

医療従事者におけるHIVの曝露対策

愛媛大学医学部附属病院薬剤部 HIV感染症専門薬剤師 井門 敬子

愛媛県の状況

愛媛県では、県内19のHIV診療拠点病院のうち、表1の8病院にHIV曝露時の予防薬(ビリアード、エピビル、カレトラ)が配置されています。県の健康増進課によると「配置薬は愛媛県下の医療施設ならどこでも使用可能」とのことです。自施設での予防薬の準備が難しいご施設は、最寄りの配置施設へのご相談をお勧めします。昨年、ご協力いただいたアンケートの結果では、全施設で予防薬の管理は薬剤師が行っており、配置場所は薬剤部となっております。緊急の場合に備え、事前に各施設の薬剤部(科)長に相談されておくと安心かと思えます。また、愛媛大学病院は、自施設購入分を配置しておりますので、事前にご相談ください。

(連絡先:薬品情報管理室089-960-5732)

図1 愛媛県のHIV診療拠点病院



表1 予防薬の配置状況

	愛媛県から予防薬が配置されている施設	自施設で購入している施設
東予	三島医療センター、愛媛県立新居浜病院、愛媛県立今治病院	
中予	愛媛県立中央病院、松山日赤病院	愛媛大学病院
南予	市立八幡浜総合病院、市立宇和島病院、愛媛県立南宇和病院	

【お知らせ】

2010年9月9日付の厚生労働省労働基準局長からの基発0909第1号により「医療従事者等に発生した針刺し事故後、HIV感染の有無が確認されるまでの抗HIV薬の投与について労災保険の療養の範囲として取り扱う」ことが認められました。

(参照) 米国疾患管理予防センター (CDC) ガイドラインより抜粋

職業的曝露時のHIV感染の予防

表1 皮膚貫通による曝露の場合のHIV予防に関する推奨

	軽傷	重傷
HIV感染者 (class 1)	2剤併用療法による予防を推奨	3剤(以上)併用療法による予防を推奨
HIV感染者 (class 2)	3剤(以上)併用療法による予防を推奨	
曝露源患者のHIV抗体不明	通常予防内服は不必要 HIV感染のリスクが考えられる場合には2剤併用療法による予防を考慮 HIV陰性が判明したら中止	
曝露源が特定できない	通常予防内服は不必要 曝露源がHIV陽性と考えられる場合には2剤併用療法による予防を考慮	
HIV抗体陰性	予防内服は不必要	

class1: 無症候性HIV感染症、HIV-RNA量1500IU⁺/mL未満 class2: AIDS、HIV初感染期、HIV-RNA量高値

軽傷: 中空のない針、表面的損傷の場合

重傷: 中空のある針、深い損傷、医療器具の肉眼的血液付着、動脈や静脈で使用した針の場合

表2 粘膜または損傷した皮膚への曝露の場合のHIV 予防に関する推奨

	少量 (例えば、数滴)	多量 (例えば、多量の血液飛沫)
HIV 感染者 (class 1)	2 剤併用療法による予防を考慮	2 剤併用療法による予防を推奨
HIV 感染者 (class 2)	2 剤併用療法による予防を推奨	3 剤 (以上) 併用療法による予防を推奨
曝露源患者のHIV 抗体不明	通常予防内服は不必要	通常予防内服は不必要 HIV 感染のリスクが考えられる場合には2 剤併用療法による予防を考慮
曝露源が特定できない	通常予防内服は不必要	通常予防内服は不必要 HIV 感染のリスクが考えられる場合には2 剤併用療法による予防を考慮
HIV 抗体陰性	予防内服は不必要	

曝露後予防内服の開始時期と期間

◆曝露後予防内服は可能な限り素早く (数時間以内) に開始し、可能であれば、4 週間継続する。

HIV に対する曝露後予防内服の薬剤 (愛媛県からの配置薬)

推奨される2剤併用療法 TDF (ピリアード®) + 3TC (エピビル®)

- ◆ TDF 1日300mg 分1 (食事に関係なく内服が可能)
- ◆ 3TC 1日300mg 分1、または分2 (食事に関係なく内服が可能)
- ◆ 注意点: TDF と3TC には抗HBV 効果があるため、HBV (+) の人への使用に注意。

推奨される3剤 (以上) 併用療法での追加薬剤 □ LPV/rtv (lopinavir/ritonavir、カレトラ®)

- ◆ 1 錠中にLPV200mg、RTV50mg 含有。1日4錠 分2 (食事に関係なく内服が可能)
- ◆ 注意点: 薬剤相互作用が多く存在し、重大な場合もある。
高度の脂質代謝異常を合併しうる。
下痢を含めた消化管症状が多い。

表3 抗HIV 薬に伴う副作用

NRTI (核酸類似体逆転写酵素阻害剤)			
Lamivudine	エピビル	3TC	腹痛、吐き気、下痢、皮疹、肺炎
Tenofovir	ピリアード	TDF	吐き気、下痢、嘔吐、鼓腸、頭痛、腎機能障害
PI (プロテアーゼ阻害剤)			
Lopinavir/rtv	カレトラ	LPV	下痢、疲労、頭痛、吐き気、高コレステロール血症、高中性脂肪血症

妊娠時における抗HIV 療法

- ◆ 専門家へのコンサルトが必要
- ◆ 禁忌: EFV、d4T/ddI
- ◆ 推奨: AZT+3TC+LPV/rtv

以下のホームページに予防服薬マニュアルが記載されているので、ご確認ください。

医療事故後の HIV 感染防止のための予防服薬マニュアル

http://api-net.jfap.or.jp/library/guideLine/images/yobo_manual_2003.pdf

抗 HIV 治療ガイドライン

<http://api-net.jfap.or.jp/library/guideLine/images/guideline2010.pdf>